

令和1年11月11日

「第13回細菌学若手コロッセウム in みやぎ蔵王」 開催報告

令和1年8月18日から8月20日の3日間にわたり、第13回細菌学若手コロッセウム in みやぎ蔵王を旬樹庵さんさ亭（宮城県蔵王町）において開催し、無事に終了いたしましたのでご報告申し上げます。

本年度の参加者は3年ぶりに50名を超える51名を数え、特別講演3題、一般演題として口頭発表25題、ポスター発表48題の発表が活発な質疑応答と共に行われました。特別演題には、ゲノム、生態学、可視化分野において最先端の研究を展開されている仁木宏典先生（国立遺伝学研究所）、近藤倫生先生（東北大学）、岩野智先生（理化学研究所）を招待し、最新の手法や成熟した研究者の考えを学べる刺激的な時間となりました。また、企業からは10Xgenomics様とIllumina様に参加していただき、本研究会の1つの特徴である企業との交流も引き続き実現することができました。一般演題のうち、口頭発表11題とポスター発表22題が学生によるものであり、学生参加者の意欲の高さを感じられました。特に優れた発表を行った学生3名に対して若手奨励賞（若コロ優秀賞）を授与し、ASM young ambassadorを務められている佐藤豊孝先生（札幌医科大学）のご協力のもと、ASM best poster presentation 賞を学生1名に授与しました。発表のみならず、会期全体にわた

って参加者間で活発に交流が行われ、開催後のアンケートでは、「学会とは異なる交友関係ができ、普段得られない多様な意見を得られた」などの感想を多くいただくことができました。このように、本研究会の開催によって、細菌学の将来を担う若手研究者の活性化や教育に微力ながら貢献できたと考えております。

本研究会は、日本細菌学会から多大な支援を受けて開催されたものです。ご支援について、日本細菌学会理事会および会員の皆様に改めて感謝申し上げます。世話人ワーキンググループは、今後もこれまでと同様「細菌学」と「若手研究者の交流」をキーワードとして、学生の育成や若手研究者による学際的（横断的）研究の開拓、発展の場を提供することを目指しております。来年度は、代表世話人として川端重忠教授（大阪大学）が内定し、引き続き山口、土門、松本、山崎の4名が世話人を務め、さらに3名程度の新世話人が参加する予定です。引き続き、本研究会の継続的な開催へのご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

第13回細菌学若手コロッセウム

代表世話人 南澤究（東北大学）、永田裕二（東北大学）

世話人：矢野 大和（東北大学）、竹本 訓彦（国立国際医療研究センター）、鴨志田 剛（京都薬科大学）、按田 瑞恵（東京大学）、山口 雅也（大阪大学）、土門 久哲（新潟大学）、松本 靖彦（明治薬科大学）、山崎 聖司（大阪大学）